岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・8　vol.431

●発行者―理事長・学長　小川 彰　●題字―大堀 勉

画期的な改革が進められている歯学部・歯科医療センター

＜写真撮影：７月26日㈭＞

おもな内容

●― 特　集 Ⅰ　遺伝カウンセリングの新たな窓口として－臨床遺伝科のご紹介－
臨床遺伝科診療部長　福島　明宗

●― 特　集 Ⅱ　歯学部改革プロジェクトについて　歯学部長　三浦　廣行

●― トピックス　永年勤続者表彰が行われました

●― 寄　　稿　TOMODACHI～アメリカ大使館からの招待状～　理事長・学長　小川　彰

●― 表彰の栄誉　医学部麻酔学講座　大畑　光彦 講師が日本ペインクリニック学会第46回大会「最優秀演題賞」を受賞しました

●― フリーページ　すこやかスポット医学講座 №40　食中毒　臨床検査医学講座　助教　小笠原　理恵

特集 I

遺伝カウンセリングの新たな窓口として
－臨床遺伝科のご紹介－

臨床遺伝科診療部長　福　島　明　宗

昨年７月１日、遺伝カウンセリングを中心とした診療を行う「臨床遺伝科」が開設され、１年が経過いたしました。今回この場をお借りし、改めて当診療科のご紹介をさせていただきます。

2003年にヒトゲノム解析が終了し、またSNP（１塩基多型）解析やDNAマイクロアレイなどの検査法普及により、これまで関連性が少ないと思われていた疾患への遺伝学的解析が次々と行われる様になってきております。日本においても健康食品会社などが窓口になり、遺伝子検査や診断が医療機関の受診なしに手軽な値段で受けられることが可能な時代を迎えております。しかしその一方で、それら検査結果に関する専門的なフォローの機会は全く無いか極めて限定されているのが現状です。一般社会においては虚実織り交ぜた遺伝に関する情報がネット上をはじめ巷に溢れかえってきております。残念ながらそれらの間違った情報に翻弄され適切な医療サービスを受ける機会を逸しても、その責任の所在は必ずしも明確ではありません。さらに誰もその間違いにすら気づかずに過ごしてしまっているケースなども少なからずあるのではと思われます。また遺伝的な悩みを抱えていてもどこにその相談の窓口があるのかが判らず、そのことで悩まれているケースもあるのではないかと思います。これまで岩手県での遺伝カウンセリングは岩手医科大学附属病院産婦人科外来と岩手県県央保健所にて行われて参りました。しかしながらニーズの掘り起こしは十分でなく、さらに相談内容の多様化への対応、より高度で専門レベルでの遺伝診療への対応が迫られていたところです。また遺伝医療に関するスペシャリストの育成も今後重要な課題となっております。これらの状況を踏まえ、そのニーズに応えるべく当科が新設された次第です。

これまでに多くの医学領域において遺伝学的な関与が明らかにされており、本診療科の担当分野も多岐にわたっております。従って当科の診療メンバーも多分野・多職種にわたっております。これまでに産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、乳腺外科、消化器内科、神経内科、形成外科、口腔外科の各専門医に加え、助産師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士、ケースワーカーの方々にも診療科メンバーに加わって頂いております。

現在当科が行っている主な診療内容は以下の通りですが、今後段階的に診療内容を充実していく予定です。

【主な診療内容】

1）出生前診断に関わる染色体検査および遺伝カウンセリング
2）家族（遺伝）性腫瘍に関わる遺伝子検査および遺伝カウンセリング
3）先天性難聴に関わる遺伝子検査および遺伝カウンセリング
4）妊娠とお薬相談室

以上の診療行為は全て日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」に則って行われます。従って出生前親子鑑定など医療目的ではない遺伝子解析・検査は行いません。

なお保険収載された35疾患（デュシャンヌ型筋ジストロフィー等）以外は自費診療行為になりますので、当科受診前にその件を相談希望者（クライアント）にご説明いただければ幸いです。

さて当科で担当している診療のうち、薬剤部と共同で行っている「妊娠とお薬相談室」に関してご紹介申し上げます。

「妊娠とお薬相談室」のご紹介

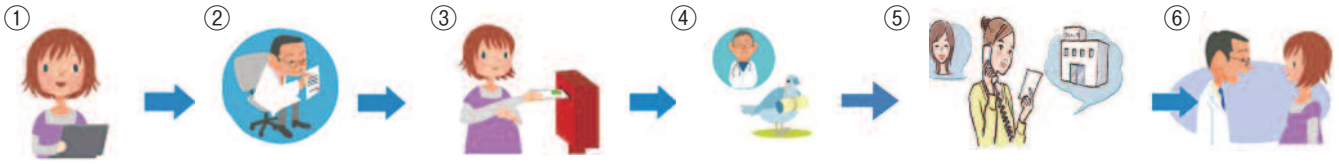
薬剤部　木村　佳代子、四倉　未来、塩山　亜紀

Q１：妊娠とお薬相談室はどんなところですか？

「持病のための薬を使用しています。妊娠を希望していますが、薬はやめるべきでしょうか？」「妊娠しているとわからずに薬を使用してしまいました。赤ちゃんへの影響はあるのでしょうか？」など妊娠と薬に関する不安や悩みにお答えするために、岩手医科大学附属病院（以下、当院）では、「妊娠と薬情報センター」(※1)の拠点病院として、2009年６月から外来に「妊娠とお薬相談室」を開設し、相談を行っています。

当院の「妊娠とお薬相談室」は、研修を受けた薬剤師と臨床遺伝科医師が担当しています。相談は対面方式で、医師・薬剤師が「妊娠と薬情報センター」から郵送される、相談薬剤に対する回答書をもとに行っています。相談室は当院での治療の有無にかかわらず利用することができますが、完全予約制となっておりますので、詳しい申し込み方法等につきましては当院ホームページを参照されるか、以下の連絡先にご連絡ください。

申し込みから相談までの手順



① 問診票に記入

② 「相談依頼書」※を主治医に書いてもらう

③ 必要書類を封書にてポストへ投函

④ 「妊娠と薬情報センター」からの連絡を待つ

⑤ 予約を取る

⑥ 相談を受ける

※「妊娠と薬外来」を希望されている方は、「相談依頼書」がなくてもかまいません。

※1「妊娠と薬情報センター」について

現在、我が国においては、医薬品の妊婦・胎児への影響に関して、必ずしも十分な情報があるとはいえません。そのため、薬物療法中に予期せず妊娠し妊娠継続について悩む、あるいは慢性疾患をもつ女性が妊娠を考える際に薬の使用が妊娠を諦める原因となってしまうことがあります。2005年、厚生労働省の事業として国立成育医療研究センター（東京都）内に設置された「妊娠と薬情報センター」ではこのような状況を改善するために、妊娠中の薬剤使用について不安を感じる相談者に応じること、及び相談者の妊娠結果を調査・評価し新たなエビデンスを確立していくことの2つの業務を行っています。

また、相談業務に関しては、対面相談の充実を図る目的で全国の主要都市に拠点病院を設置しており、2012年現在、21施設に拡大されています。東北地方の施設は、当院と仙台医療センターです。

※詳細は「妊娠と薬情報センター」ホームページ　http://www.ncchd.go.jp/kusuri/index.html

問い合わせ先

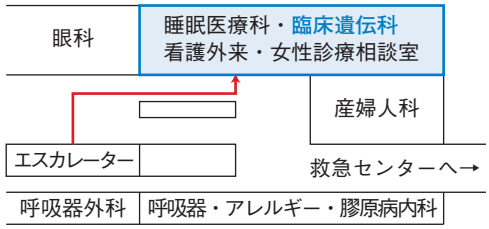
岩手医科大学附属病院「妊娠とお薬相談室」
TEL：019−624−5263
（祝日を除く月曜日〜金曜日
9：00〜16：00）
HP：http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/ninsin/index.html

Q2：これまでにどのような相談がありましたか？

具体的には、「これから妊娠を計画していますが、関節リウマチの治療で使用しているプレドニゾロン®、リマチル®、リウマトレックス®の影響について聞きたいです。」「強迫性障害でユーパン®、メイラックス®を使用しています。妊娠したことがわかり、薬の影響が心配です。また、妊娠により状態が悪化したため、主治医にこれから使用する可能性のある薬として、パキシル®、ジェイゾロフト®、レスリン®、レキソタン®、コントミン®があると言われました。こちらについても相談したいです。」「妊娠しているとわからずに、市販薬のパブロンA®を使用してしまいました。赤ちゃんに何か影響はありますか？」「妊娠後に発症した逆流性食道炎でガスター®を使用していましたが、症状が改善せず主治医から薬剤の変更を検討していると言われました。妊娠への影響が少ない薬剤を知りたいです。」といった相談が寄せられています。また、相談後には「インターネットで調べてみたら、赤ちゃんに異常が出る、この薬を使用中は妊娠しない方が良いという内容があり、とても不安になった。今回、きちんと聞けて良かったです。」「薬の影響について詳しく聞けたことで、すごく楽になりました。」という感想をいただき、スタッフ一同不安軽減の一助となっていると実感しています。

さて、研究分野においても遺伝子関連の研究テーマが主たるものになっておりますが、その一方でそれら研究における倫理的配慮に関する審査も厳格になってきております。すなわち研究成果のみならず、その研究における倫理的配慮に関しても厳しく評価されるのが当たり前の時代になってきております。研究内容によっては遺伝カウンセリングを必須とするケースも出てきております。我々臨床遺伝科ではこのような場合での遺伝カウンセリングに関しても対応できる体制を取っておりますので、ご利用いただければ幸いです。

今年7月には新しい外来診療室が完成いたしました。さらに充実した遺伝カウンセリングが可能となりましたので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



外来棟2階フロア略図

特集 II

歯学部改革プロジェクトについて

歯学部長　三　浦　廣　行

大学報第427号（2012年４月発行）にて、現在進行中の歯学部改革プロジェクトについて概要を説明させていただきました。本プロジェクトでは新しい教育・診療・研究システムを構築するため、理事会直属で歯学部改革プロジェクト実行委員会を組織し、プロジェクトの企画、立案、推進等について審議しております。

また同実行委員会の実践部隊として、教育・診療・研究等における具体的計画を立案し、実行委員会の決定事項に基づき実務を実践する専門部会（歯学教育部門、歯科臨床部門、歯科医学研究部門、国際地域医療協力部門）を設置しております。

今回は、本改革プロジェクトの実践部隊である４つの専門部門のうち、改革のメインに位置づけられる教育、臨床の部門の取組みや今後の展望について両部門長から紹介させていただきます。

〔歯学部改革プロジェクト組織図〕

理　事　会

岩手医科大学歯学部改革プロジェクト実行委員会

岩手医科大学歯学部改革プロジェクト実行委員会専門部会

ODE：歯学教育部門 Office of Dental Education	OCA：歯科臨床部門 Office of Clinical Affair	ODR：歯科医学研究部門 Office of Dental Research	OGCH：国際地域医療協力部門 Office of Global and Community Health

改革の２年目を迎えた歯学教育の遷移

歯学教育部門長
口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 特任講師　佐藤　和朗

歯科医師国家試験の合格率低下や、全国的に広がる歯学部受験者数減少の風潮が本学にも影響し、近年歯学部の教育現場は艱苦の状況が続いています。その打開策として、昨年５月にスタートした米国ハーバード大学と共同で行ってきている歯学部改革プロジェクトも２年目を迎えました。この歯学部改革プロジェクトは一言で言えば、歯学部の教育・臨床・研究をもう一度見直し、将来に向けて活性化する事業であると言えます。

歯科医療センター外来での第３学年の基礎実習風景

昨年度に教育部門が取り組んだ見直しは、ハード面では基礎系講座が矢巾キャンパスに移転した後の歯学部５階を学生自習専用の部屋に改装し、講義が終わってからも学内で学習できる場所を増やしました。それに伴いソフト面としては各学年を６つのグループに別け、第１学年から第６学年までを縦割りにしたSocietyを構成し、先輩が後輩の相談役になるような、所謂屋根瓦方式のグループ制度を導入しました。このSociety制度を実働させるために、各グループに各々２名

学生自習専用の部屋での学習指導風景

先進総合歯科Ａでの臨床実習風景

のTutor（担当教員）を専属配置し、学生の面談や臨床指導を行ってきております。その他第３・４学年で教授する臨床科目の統合や、臨床実習ではケースプレゼンテーションの課題を新たに導入するなど、各学年のカリキュラムを大幅に見直してきております。このような改編は本年度も継続しており、臨床部門が中心となって進めてきた歯科医療センターの再編では、本年度から更なる診療参加型実習の充実のために先進総合歯科Aを発足させたことや、低学年への個別指導の強化のためTutor６名を増員しております。そしてこの５月にはハーバード大学から３名の先生方を招き、学生の講義や若手研究員の臨床フォーラム等を行って頂き、現場での連携を深めております。

このように今後も教育部門で行わなければならない課題は枚挙に遑がないと思われますが、一歩一歩確実に歯学部活性化に向けて前進していきたいと思っております。

歯学部改革プロジェクト臨床部門について

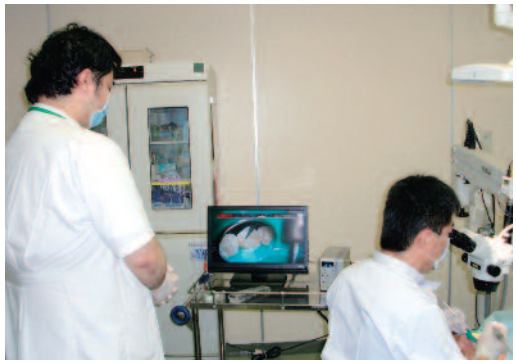
歯科臨床部門長
歯科保存学講座う蝕治療学分野 教授　野田　守

本学歯学部が陥っている国家試験合格率の低迷、入学者減少という状況を改善すべく歯学部改革プロジェクトが昨年度より開始されました。教育を中心として改革を行い、社会に貢献する有能な歯科医師を育てることが目標とされています。

臨床部門では、教育カリキュラムの大幅な改変に伴い、臨床実習で院内生がより多くの臨床例を自験することが必須であると考えられています。従って、臨床実習生が指導医の指導を受けながら診療グループの一員として参加して、歯科診療に携わる為の外来、Comprehensive Care Clinic（先進総合歯科外来）が設立され、平成24年５月より稼働しています。さらに、臨床実習の充実だけではなく、歯科医療センターでの専門性の高い医療を効率的に行う為に診療科の再編を行いました。従来からの大きな変更点としては高度先進補綴科、高度先進保存科を設立し、歯科診療の中で比較的高頻度に行われる部門を集約化したことがあります。また、これまで各診療科で個別に行われていた歯科衛生士による口腔ケア指導をより充実して実施できるように口腔ケア外来を立ち上げ運営しています。

今後は、臨床実習と連携した臨床研修医の教育ができる組織作り、臨床研究が効率的に行える部門の充実を図って行く予定です。

改革プロジェクトはようやく走り始めたばかりです。教育、研究の部門と三位一体となり改革を進めて行く必要があります。何卒皆様の御理解と御協力、御支援を宜しくお願い致します。


顕微鏡を使用し、モニターに映しながらの治療風景

理事会報告

■６月定例（６月25日開催）

１．教育職員の人事について
　病理学講座分子診断病理学分野　特任准教授
　　石田　和之（前東北大学病院病理部　院内講師）
　医学部救急医学講座　特任准教授
　　山田　裕彦（前講師）
（発令年月日　平成24年７月１日付）

２．平成25年度学納金の改定及び学則の一部変更について
　平成25年度から歯学部学納金を引き下げることに伴い、学則を一部改正
（施行年月日　平成24年７月１日）

３．組織規程の一部改正について
＜改正内容＞
　岩手県こころのケアセンター及び災害時地域医療支援教育センター、いわて東北メディカル・メガバンク機構並びにこれらの統括組織として災害復興事業本部を設置。
（施行年月日　平成24年７月１日）

平成23年度　決　算

大学の経営は、少子化の進行に伴う18歳人口の減少などにより大学間の競争が激化するなか、入学定員の充足が大学の維持に不可欠なものとなっています。また、国においては東日本大震災津波による大災害の復旧復興や高齢化による社会保障給付の増加に対する財源の確保が不明確な情勢となっています。

このような環境下において、本学はさらなる教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。主に、内丸地区の学部移転跡地の利用による手術部門及び外来部門の拡充工事やドクターヘリ基地ヘリポート建設工事、また、災害時地域医療支援教育センター設置の機器や電子カルテシステム本体の導入など設備の充実を図りました。

平成23年度消費収支決算では、大震災の影響などにより39億4,318万円の支出超過額の計上となりました。

1．消費収支の概要

（1）消費収入

消費収入の合計額387億7,554万円は、前年度比17億1,783万円（4.6％）増加、予算比では３億886万円（0.8％）下回りました。

① 学生生徒等納付金75億4,029万円は、前年度比１億7,854万円（2.4％）増加しました。主に医学部定員増の学年進行及び薬学部開設５年目に伴う増加と、歯学部の学生数減による減少がありました。

② 医療収入300億4,072万円は、前年度比８億1,014万円（2.8％）増加しました。

附属病院医科の医療収入は、前年度比５億7,784万円（2.6％）の増加、歯科医療センターは8,323万円（8.0％）の増加、循環器医療センターは356万円（0.1％）の増加、花巻温泉病院は4,048万円（2.6％）の減少、ＰＥＴ・リニアック先端医療センターは１億8,600万円（729.1％）の増加となりました。

③ 補助金合計額は、41億5,401万円で前年度比10億2,228万円（32.6％）増加しました。

私立大学等経常費補助金20億5,130万円は、前年度比２億3,929万円（13.2％）増加、その他の国庫補助金では、大学改革推進等補助金（大学等における地域復興のセンター的機能整備事業）６億円、私立学校施設災害復旧費補助金9,892万円、私立学校施設整備費補助金4,480万円、医師臨床研修費補助金3,808万円、歯科医師臨床研修費補助金5,713万円等で合計９億2,290万円でした。また、地方公共団体補助金は、ドクターヘリ導入促進事業費補助金３億2,145万円等で合計11億7,610万円となり、前年度比１億7,978万円（18.0％）増加しました。

（2）消費支出

消費支出の合計額427億1,872万円は、前年度比40億8,000万円（10.6％）増加、予算比では４億8,845万円（1.2％）上回りました。

① 人件費196億2,038万円は、前年度比10億6,967万円（5.8％）増加しました。

給与、賞与、所定福利費の合計175億8,923万円は、前年度比２億7,132万円（1.6％）増加し、退職金と退職給与引当金繰入額、退職給与引当金特別繰入額の合計19億7,959万円は、前年度比８億１万円（67.8％）増加しました。

② 医療経費115億7,120万円は、前年度比３億5,282万円（3.1％）増加しました。

医薬品費は、前年度比１億2,350万円（2.1％）の増加、医療材料費は２億3,522万円（4.6％）の増加、給食材料費は590万円（2.6％）減少しました。

医療収入に対する医療経費割合は38.5％となり、前年度の38.4％を0.1％上回りました。

③ 光熱水費は、重油料３億3,896万円、ガス料1,907万円、電気料４億6,879万円、水道料１億8,896万円、合計10億1,578万円となり前年度比１億756万円（11.8％）増加しました。

④ 修繕費は、施設修繕費６億7,228万円、機器備品修繕費１億6,216万円、合計８億3,444万円となり前年度比４億6,760万円（127.5％）増加しました。

⑤ 消耗品費11億5,510万円は、前年度比2億4,589万円（27.0％）増加しました。

⑥ 印刷製本費１億4,247万円は、前年度比2,298万円（13.9％）減少しました。

⑦ 業務委託費23億1,528万円は、前年度比2,247万円（1.0％）増加しました。部門別では、附属病院医科10億6,886万円、歯科医療センター9,421万円、循環器医療センター２億8,920万円、花巻温泉病院１億4,774万円、その他７億1,527万円でした。

⑧ 公租公課9,370万円は、消費税3,631万円、法人税1,968万円、事業税844万円、固定資産税・都市計画税1,155万円等でした。

⑨ 学生福利費3,205万円は、学友会館諸経費1,377万円、その他健康診断経費・予防接種経費等でした。

⑩ 職員福利費１億3,480万円は、健康診断諸経費1,983万円、保育園運営管理委託料1,980万円等でした。

⑪ 減価償却額34億3,796万円は、前年度より９億1,788万円増加しました。

⑫ 資産処分差額１億4,193万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等でした。

2．資本収支の概要

（1）資産の部

① 土地関係１億2,948万円は、矢巾町から無償譲渡を受けた病院移転用地でした。

② 施設関係11億4,507万円は、建物８億9,078万円、建設仮勘定支出１億6,176万円等でした。

③ 設備関係28億2,281万円は、教育研究用機器備品27億6,242万円等でした。

④ 施設拡充引当特定資産として45億円を積み立てました。

⑤ 貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料２億7,015万円、歯科貴金属471万円、合計２億7,486万円でした。

（2）負債、基本金、消費収支差額の部

① 前受金残高13億3,949万円は、平成24年度入学生の学生生徒等納付金等でした。

② 預り金残高５億2,806万円は、源泉所得税5,011万円、県市町村民税9,441万円、私学共済掛金１億96万円等でした。

③ 基本金は74億219万円を組入れし、884億6,903万円となりました。

④ 消費支出超過額39億4,318万円と前年度繰越消費支出超過額115億8,910万円を合計した翌年度繰越消費支出超過額は、155億3,228万円となりました。

⑤ 自己資金（基本金＋翌年度繰越消費支出超過額）は、前年度より34億5,901万円増加し、729億3,675万円となりました。

平成23年度　消費収支計算書　（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	7,540,285	人件費	19,620,381
手数料	187,319	医療経費	11,571,209
医療収入	30,040,723	消耗品費	1,155,095
寄付金	2,459,619	光熱水費	1,015,785
補助金	4,154,006	旅費	227,821
資産運用収入	175,942	修繕費	834,438
事業収入	744,824	業務委託費	2,315,284
雑収入	875,012	減価償却額	3,437,960
帰属収入合計	46,177,730	資産処分差額	141,932
基本金組入額合計	△ 7,402,190	その他の経費	2,398,810
消費収入の部合計	38,775,540		
当年度消費支出超過額	3,943,175	消費支出の部合計	42,718,715

平成23年度　資金収支計算書　（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,540,285	人件費支出	19,062,599
手数料収入	187,319	諸経費支出	19,359,992
寄付金収入	2,142,239	施設関係支出	1,145,076
補助金収入	4,154,006	設備関係支出	2,822,813
資産運用収入	175,942	資産運用支出	4,500,679
事業収入	744,824	その他の支出	5,201,512
医療収入	30,040,723	資金支出調整勘定	△ 4,799,333
雑収入	875,012	次年度繰越支払資金	12,615,748
前受金収入	1,322,438		
その他の収入	6,793,809		
資金収入調整勘定	△ 8,552,237		
前年度繰越支払資金	14,484,726		
収入の部合計	59,909,086	支出の部合計	59,909,086

貸借対照表　平成24年３月31日　（単位：千円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	65,841,736	固定負債	6,453,188
有形固定資産	55,539,922	流動負債	6,595,019
その他の固定資産	10,301,814	負債の部合計	13,048,207
流動資産	20,143,222	基本金	88,469,030
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 15,532,279
資産の部合計	85,984,958	負債・基本金・消費収支差額の部合計	85,984,958

Topics

春季感染対策講習会が行われました

平成24年度の春季感染対策講習会が、６月26日㈫から６日間にわたり歯学部棟４階講堂において行われました。（初日以外は録画映像による講習会）

今回は、福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学講座の金光敬二教授（左写真）を講師に迎えて「感染対策地域連携の重要性」と題した講演が行われ、総勢約2,000名の職員が参加しました。

参加者は熱心に聴講し、感染対策に関する知識を深めている様子でした。

永年勤続者表彰が行われました

平成24年度の永年勤続者表彰式が、７月24日㈫午後４時30分から本学講堂（歯学部棟４階）において行われました。本年度の表彰者は、勤続30年の方が49名、勤続20年の方が29名、合計78名でした。

式典では、小川理事長より代表者へ表彰状と記念品が授与され、式辞が述べられました。これを受けて病院事務部次長の齊藤俊哉さんが謝辞を述べ、式典終了後に壇上にて記念撮影を行いました。その後、会場を記念館8階に移して祝賀パーティーが催され、勤続のお祝いをするとともに今後益々のご活躍を祈念し、盛会裡のうちに終了となりました。

永年勤続30年

赤坂　玲子
阿部　由悦
内田　美喜子
梅原　照子
遠藤　利明
及川　弘美
及川　和香子
小澤　純子
押田　ふじ子
小田島　智
小山田　ルミ子
川坂　浩義
川崎　明美
北川　寿子
金野　吉晃
後藤　健治
齊藤　俊哉
佐々木　えり子
佐々木　一宏
佐藤　英一
里見　せつ子
澤　良悦
澤瀬　あや子
勝文子　竜夫
白石　省吾
鈴木　洋子
関根　君江
高橋　康子
立花　広美
千田　勝一
照井　貴美子
遠山　稿二郎
仁手　由美子
星　秀樹
松岡　洋一
松村　豊
三田　光男
南川　洋子

村上　昭雄
村田　明
八重樫　和恵
柳田　博
山崎　博規
吉田　貴子
吉田　達朗
吉田　秀樹
吉田　優
渡邊　剛
渡辺　良政
計49名

（所属・敬称略）

永年勤続20年

赤坂　俊英
石田　陽治
泉澤　充
伊東　隆
後川　昭彦
柏谷　信一
金山　久美子
鎌田　正子
亀井　淳
菊池　いな子
工藤　貴子
熊谷　美佐子
栗木　潤子
坂本　望
桜糀　由紀
佐々木　敏秋
佐藤　成大
佐藤　奈美枝
佐藤　美保
七戸　清恵
瀬川　智浩
関口　かつえ
高塚　和美
髙橋　定成
髙見　久美
千葉　励子
原田　聡
昼沢　博美
山口　久美子
計29名

（所属・敬称略）

体育大会壮行会が行われました

平成24年７月２日㈪午後５時30分から矢巾キャンパス体育館で体育大会壮行会が行われました。この催しは、「東日本医科学生総合体育大会」「全日本歯科学生総合体育大会」を始め、岩手県民体育大会など各種体育大会が夏期に行われることから、参加する学生を激励するために毎年行われているものです。

壮行会では、小川学長をはじめ、祖父江副学長や学友会総務局委員長の川村佳史さん（医学部４学年）などが激励の挨拶を述べました。続いてバスケットボール部の藤本健太郎さん（医学部４学年）が選手宣誓を行い、学友会体育局副委員長の森春樹さん（医学部４学年）が大会参加学生にエールを送るなどして、大会に参加学生は士気を高め合いました。

シリーズ 職場めぐり No.75

解剖学講座（発生生物・再生医学分野）

発生生物・再生医学分野の教室員は、教授（1）・講師（1）・助教（1）・大学院生（2）・技術員（1）の現在６名です。昼食時には一つのテーブルに集まって、和気あいあいと談話を楽しみながら食事をするアットホームなグループです。我々の分野は、発生学や組織学総論・各論、口腔組織学の講義・実習を行っています。組織学とは人体の微細構造や機能、性質を顕微鏡レベルで探究する学問で、個々の細胞から、細胞集団としての組織、さらには組織が組み合わさって形成される器官へと、これらの一連の流れを見据えた人体の成り立ちを教えています。主な研究内容は、器官培養系を用いた歯胚の形態形成メカニズムの解明や先天性遺伝子疾患に着目した歯と歯周組織の発生機構の解明と再生への展開、さらには歯科再生医療の実現を目指した技術開発などです。最近はiPS細胞から歯を作る研究も行っています。教授を筆頭に、我々皆がグローバルな意識を持つことが大切だと考え、他大学や海外との共同研究は積極的に取り組んでいます。できるだけ

幅広い技術や考え方を取り入れることで夢の歯の再生医療を実現できるよう頑張っています。

学会発表時に欠かせない大判プリンターを、当講座に設置させていただいています。学部を越えた様々な分野の方々との交流の場にもなっていますので、皆様もどうぞお気軽にいらしてください。

（大学院３年　坂野　深香）

看護部（中７階）

中７階は、血液・腫瘍内科病棟で、10代から80代までの幅広い年齢層の患者さんが入院されています。ほとんどの患者さんが化学療法を施行しており、骨髄移植は、同種・自己末梢血幹細胞移植・臍帯血移植合わ

せて年間30件前後行われています。毎週の骨髄移植カンファランスでは、精神科医・予防歯科医・薬剤師・理学療法士・栄養士の参加により、多職種で患者さんの問題解決に取り組んでおります。

また、腫瘍センターの入院化学療法病室としての役割も担っています。外科・産婦人科・呼吸器科等の患者さんを受け入れておりますが、入院日数は１日～10日前後と短期間ですので、スタッフや病棟内に慣れないうちに退院される方もおります。私たちは、緊張を解きほぐしていただくために積極的に声をかけ、良好なコミュニケーションがとれるよう、そして、「安全・安楽・安心」をモットーに看護ケアが提供できるよう、日々努力しております。（看護師長　畫澤　征子）

寄稿　TOMODACHI ～アメリカ大使館からの招待状～

理事長・学長　小川　彰

236回米国独立記念日の祝賀会に Roos 駐日米国大使夫妻から招待された。思い起こせば、昨年、米国大使館員が来学し、３.11復興事業の一環として実施している「TOMODACHI」project の説明を受けたのがご縁と思う。残念ながら岩手における project は実現しなかったが、その後も大使館経由で多くの米国関係者が来学し、大使館との交流はそれなりの効果があったものと思う。

六本木の米国大使館内の大使公邸が会場で、約1000人が参加していた。大使夫妻は公邸玄関で出迎えてくれ、一緒に写真になった。招待状にもある様に cool biz での参加である。本国での独立記念日の催しと同様、かなりくだけたパーティで庭の至る所にバーベキュー、ハンバーガーなどの食べ物や飲み物の屋台が並び自由な雰囲気で米国の行事を楽しむ事ができた。

In celebration of the two-hundred and thirty-sixth anniversary of American Independence
the Ambassador of the United States of America and
Ms. Susan Roos
request the pleasure of your company at a reception
on Wednesday, the fourth of July from six to seven-thirty o'clock
at the Residence
TOMODACHI
Please R.S.V.P. by June 15 through our website
http://tinyurl.com/usa6pm
Please present the envelope along with photo identification at reception
This invitation is non-transferable　Dress: Cool Biz/Service Uniform Class B

大使館からの招待状

ルース夫妻と大使公邸玄関で

オバマ大統領夫妻？と

ちなみに、オバマ大統領夫妻との写真は等身大のボードであり本物ではない。国事とも言うべき祭典に大統領が自国を離れることはあり得ない。米国流の一種の“fun”（おふざけ、お楽しみ）である。

表 彰 の 栄 誉

医学部麻酔学講座 大畑　光彦 講師が日本ペインクリニック学会第46回大会「最優秀演題賞」を受賞しました

この度、日本ペインクリニック学会第46回大会（平成24年７月５日より３日間にわたり島根県松江市で開催）において、臨床研究部門で最優秀演題賞を受賞しました。

演題名は「東日本大震災による外傷性ストレス障害のリスクと神経障害性疼痛の程度との関係」で概要は、岩手県で被災した慢性痛患者の外傷性ストレス障害（PTSD）のリスクは、阪神大震災での消防職員や看護職員よりも高く、特に被害の大きい沿岸部の患者さんではリスクが高い傾向が認められたこと、また痛みが神経障害性疼痛（難治性の事が多く知覚異常を伴う痛み）によるものである場合はそのリスクは高くなる傾向が示唆されたというものです。

松江フォーゲルパークにて（左から）麻酔学講座　酒井助教、大畑講師、熊谷講師、鈴木教授、水間講師

痛みは時として治療に難渋しますが、このようなリスクとの関係もあることを知ることにより、痛みというものを構成・修飾するものを理解し多面的な治療を導入することで痛み治療は進歩すると考えられます。

発表するにあたりご協力頂いた多方面の方々に深謝申し上げます。

（原稿寄稿：医学部麻酔科学講座　大畑　光彦 講師）

第100回大学報編集委員会

日　　時：平成24年８月９日(木)　午後４時～午後５時

出席委員：影山　雄太、松政　正俊、齋野　朝幸、藤本　康之、小山　薫、佐藤　仁、下山　佑、山尾　寿子、佐々木　光政、佐々木　さき子、昆　由美子、佐々木　忠司、畠山　正充、鈴木　尚子、野里　三津子

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金　～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年６月から始まりました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜わりますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は16回目の御芳名紹介です。（平成24年５月１日～平成24年６月30日）

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

＜1,000,000円＞

医療法人社団　宏衛会（静岡県）

＜御芳名のみ記載＞

医療法人都鳥会　とどり小児科医院（岩手県）

㈱こずかたサービス（岩手県）

医療法人　山下医院（福岡県）

（受付順、敬称略）

個人等

＜1,000,000円＞

安　藤　晋一郎（医26）

＜300,000円＞

圭陵会道央支部

＜100,000円＞

有　磯　秀　一（一般）

＜御芳名のみ記載＞

佐々木　志津夫（父母）

内　村　　忍（医22）

井　上　義　博（教職員）

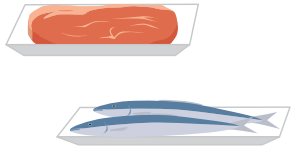
（受付順、敬称略）

これまでの募金累計額

区　分	申込件数	募金金額(円)
圭　陵　会	451	328,372,000
在学生父母	186	110,740,000
役員・名誉教授	39	69,810,000
教　職　員	109	15,945,000
在　学　生	1	100,000
一　般	107	339,892,922
合　計	893	864,859,922

（平成24年６月30日現在）

すこやか
スポット医学講座
No. 40



臨床検査医学講座
助教　小笠原　理恵

食　中　毒

食中毒のうち、特に５月から９月に多いのが細菌性食中毒です。

そのなかで近年、増加と重症化で問題になっているのが、「腸管出血性大腸菌（O-157、O-111など）」や「カンピロバクター」による食中毒です。いずれも肉に関係あり、肉の生食や、加熱不十分な肉を食べることでの増加と考えられます。昨年４月には、焼き肉チェーン店で５人が死亡した食中毒事件が話題になりました。

２種類の菌の特徴を述べます。いずれも家畜の腸内に住み、ヒトには少量で感染し、感染後２日～７日位で発症（発熱、腹痛、下痢）します。腸管出血性大腸菌は重症化しやすく、死に至る場合もあります。菌の肉への付着をゼロにすることは不可能ですが、これらの菌は熱に弱く、十分な加熱で食中毒は防げます。一方、生肉に触れた手や調理器具から間接的に汚染された生野菜や飲料水による食中毒例もあります。

以上より、細菌性食中毒を防ぐ基本は、食中毒菌を**「付けない」「増やさない」「弱める」**ことです。気をつけるべきポイントを具体的に挙げます。

【食中毒を防ぐポイント】

①買うときは消費期限を確認し、肉や魚は買物の最後に買い、すぐ帰る。包むときは他の食品に汁が付かないよう、ビニール袋で分ける。

②肉や魚の保存は、購入後すぐに、汁が漏れないようにして冷蔵庫・冷凍庫へ。冷蔵庫は10度以下、冷凍庫は－15度以下に保つ。

③調理前は手を洗う。生肉や生魚に触った後も手を洗い、使った調理器具も洗って熱湯消毒し、ふきんは清潔なものに替える。肉や魚は他の食材と接さないようにする。

④調理時は十分に加熱する。中心部分の温度が75度で１分間の加熱が目安。ハンバーグなら竹串を刺せば透明な肉汁が出る、中の赤みがない状態。清潔な食器を使用する。食事前は石鹸で手を洗う。料理は長時間室温に放置しない。

⑤残った食品は清潔な容器に移して保存し、温め直しは十分に加熱する。古くなったものは捨てる。

以上の点に気をつけて、夏を健康に楽しく過ごしましょう！

（参考：政府公報「ご注意下さい！お肉の生食・加熱不足による食中毒」2012年５月24日）

編集後記

今年の夏の暑さは特に厳しく、地球規模で進む温暖化問題をまざまざと認識させられました。そんな中、社会的にもエネルギーに対する意識に変化が出てきたように感じます。家電メーカー等が先導したのとは少し違った、生活レベルを下げた節電。その背景にはやはりいまだ厳しい環境に置かれている被災者への想いがある気がします。人は誰かの為になら変われる、そんな事を感じました。

（編集委員　畠山　正充）

岩手医科大学報　第431号
発行年月日　平成24年8月31日
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19 - 1
TEL 019-651-5111（内線7023）
FAX 019-624-1231
E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印　刷　河北印刷㈱　盛岡市本町通2 - 8 - 7
TEL 019-623-4256
E-mail:office@kahoku-ipm.jp